『どうやって置く?』　　4歳児　10月　伏見こども園

エピソード

園庭に風呂椅子、エス棒、フープ、コーン、プールスティックなどいろいろな道具を準備しておくと、自分達で並べてサーキットコースをつくって遊ぶようになりました。フープを投げて遊ぶことを楽しむ姿から、的となるペットボトルを用意すると、ビールケースの上に置きねらって投げるようになりました。

毎日繰り返し楽しむなかで、一人ずつ順番にコースを進み、ペットボトルを倒したら次の人がまた遊べるように立ててからまた列の後ろに戻るという遊びのルールができてきました。A ちゃんがペットボトルを倒し終わると「えへへ」と笑いながらペットボトルの上にさらにペットボトルを乗せようとしていました。「面白いね。乗るかな?」と保育者が声を掛けて見守っていると、Aちゃんはそっと手を離し橋のような形でペットボトルが積み重なりました。次に待っていた B くんは「すごいね!」と驚き、嬉しそうに倒していました。次に B くんもペットボトルを面白い形で積み重ねようとしますがバランスがうまく取れず傾いて困ってしまいます。それを後ろで見ていた友達が周りに集まってきて「こうすればいいんじゃない?」「わかった!こっち向きにしよう」「あー倒れた」「これならできるかも」と一緒に考えながらペットボトルの置き方を工夫していました。

子どもの育ちや学び



今日は風呂椅子をいっぱい並べよう（楽しい）

えへへ。良いこと考えた（工夫）



上に乗ってる!面白い（驚き・刺激）



こうすればいいんじゃない?（提案）

手伝おうか?



わかった!こっち向きにしよう（提案）

あー倒れた

- 自分達でサーキットのコースを並べたり、次の人の準備をしたりし、遊びのルールをつくっていく。
- ペットボトルを横一列に並べるだけでなく、上に重ねることを思いつき、やってみる。
- 友達の姿から刺激を受け自分もやってみようとしたり、友達が困っていることに気付いて自分の考えを言い合ったりする。

保育者の思い

- ものを並べる準備から子ども達がすることで、毎日置き方が変わったり、迷路のように曲がったコースになったりして面白いです。自分達で遊びをつくっていく楽しさを感じてほしいと思っています。
- どうすればペットボトルを面白い形でおけるのか「ああでもない」「こうでもない」と4歳児なりに言い合っている姿が可愛らしかったです。ペットボトルはデコボコしていたり、形が四角形ではなかったりするため積み木のようにバランスよく置きにくいです。だからこそ友達が集まり、自分の考えを言い合う姿につながったと思います。

家庭だったら・・・

運動あそび参観で行ったドキドキサーキットは、日々の遊びの中で子どもが楽しんだり工夫したりした姿から発展したものです。この時はフープだけを使って倒していましたが、後日プールスティックをバットのように振って倒した子をきっかけに、プールスティックで倒す技が広まったんですよ☻